

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

平成 27 年「患者体験調査」の再分析

研究分担者 樋田 勉 獨協大学経済学部 教授

研究要旨

本研究班の前身の研究班で、平成27年に行われた「患者体験調査」の再分析を行い、さまざまなウェイトを使用することが、患者集団の分布に対してどのように影響を及ぼすかを検討した。これらの結果は単純な計算手法の影響の検討にとどまるが、より補助情報が利用可能であれば、推定精度の向上を図ることが可能になると思われる。また、患者納得度をどのようにとらえるかについては、より様々な因子があるために詳細の解析が必要と考えられる。

A. 研究目的

本研究の目的は、(1) 平成27年「患者体験調査」の集計段階において、母集団情報を利用して推定精度の向上が可能であるか検討して次回調査設計へ役立てること、及び、(2) 患者の納得度と他の要因との関連を検討することである

B. 研究方法

(1) については、「患者体験調査」の個票データの集計段階において、通常の復元ウェイトと母集団情報を利用するカリブレーションウェイトを作成し、推定精度を比較する。(2) については、標本抽出設計を考慮したデザインベースの回帰分析手法により、患者の治療開始までの納得度と治療に関する納得度と他の要因との関連を分析する。

(倫理面への配慮)

匿名データを利用。

C. 研究結果

(1) については、母集団情報を用いて復元ウェイトをカリブレーションすることにより、若干の推定精度の向上が見られた。(2) については、他の調査項目

(医療スタッフからの情報提供や調査実施時点における通院等の状況等) とのあいだに統計的に有意な関連が見られた。

D. 考察

(1) の結果から、次回調査において、より詳細な母集団情報や調査実施時における補助情報が利用可能になれば、さらに推定精度の向上を図ることが可能と考えられる。(2) の結果から患者の納得度を高めるためには医療スタッフからの十分な情報提供や、スケジュールの十分な情報、医療チームの十分な連携等が重要と示唆された。

E. 結論

患者体験調査については、母集団情報や補助情報を利用することでさらに推定精度を向上させることが可能と考えられる。その一方で、調査では単位無回答や項目無回答が発生していることから、無回答の処理方法とバイアスについてもより詳細に検討することが必要である。無回答の処理は患者の納得度の分析におい

でも重要であり、今後これらを考慮した分析を行うことが必要と考えられる。

H. 知的財産権の出願・登録状況

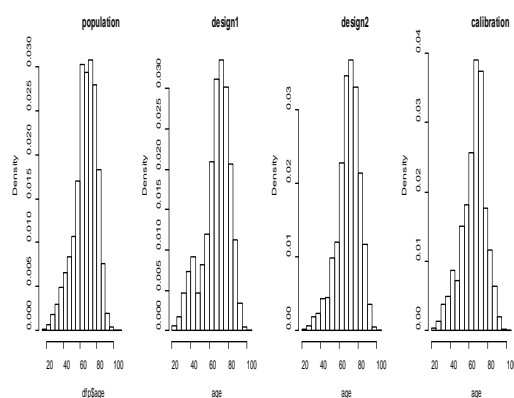
G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

各種 weight による推定値と母集団との比較

		推定値	標準誤差
母集団	男性	55.7%	
	女性	44.3%	
等ウエイト	男性	55.1%	0.73%
	女性	44.9%	0.73%
集計1	男性	57.4%	0.93%
	女性	42.6%	0.93%
集計2	男性	54.8%	0.95%
	女性	45.2%	0.95%



集計方法 1：一段抽出の層（都道府県×県拠点・地域拠点）

二段抽出の層（がん種別，希少，若年，その他）の各層でウエイト算出

集計方法 2：さらに患者数推定値が都道府県・年齢階級・がん種で一致するよう Calibration